

1 ミクロコスモス あらたな交流のころみ 展示室1・2 [2F]

2020年 2月29日[土] ▶ 6月21日[日]

現在活躍中の7人の作家による作品から、ガラスと表現の新たな様相を探る展覧会です。身近な植物や生き物、あるいは自身の表現素材など、自らとは異なる存在の中に力強さや美しさを見いだしながら作家達が構築した、小宇宙とも言うべき繊細で複雑な作品世界をお楽しみください。



言上真舟(Scent of mist)2017年
作家蔵 撮影:カリン・ビョーククイスト

出品作家:
伊藤真知子、猪野屋牧子、勝川夏樹、小曾川瑠那
言上真舟、谷口嘉、渡辺知恵美

2 Ivana Šrámková-Beings イヴァナ・シュラムコヴァ ここにあるもの 展示室3 [3F]

2020年 4月25日[土] ▶ 9月22日[火・祝]

チェコの作家イヴァナ・シュラムコヴァ(1960-)は、自身を取り巻く自然や社会から着想を得て、主に人間や動物をモチーフに、キャストの技法によるガラス彫刻、吹きガラスのオブジェや器、そして油絵など様々な手法で作品を制作します。本展では約80点の個性豊かな作品たちを通して、作家の生み出す独自の世界観を紹介します。



Ivana Šrámková(Slepice / Hen)2016年
作家蔵 撮影:Gabriel Urbánek

3 インタラクシオン 響きあうころ 展示室1・2 [2F]

2020年 7月4日[土] ▶ 9月22日[火・祝]

私たちは、偶然に出会う光景から感じた音や光、時間の流れによって、自身の感覚や記憶が呼び覚まされることがあります。その体験は、私たちと目の前の光景との間に思いがけないつながりを生み出します。本展では、見る者の感覚や記憶に作用し、作品世界と積極的な関わりを促すインスタレーションを展開する3名の作家を紹介します。



赤松音呂(チジキンクツ)2013年 作家蔵 ©赤松音呂
展示風景:OK Center for Contemporary Art [リンツ、オーストリア]

出品作家:
赤松音呂、磯谷博史
佐々木類

4 きなしのりたけ 木梨憲武展 Timing -瞬間の光り- 展示室1-3[2・3F]

2020年 10月10日[土] ▶ 11月23日[月・祝]

代表作「REACH OUT」シリーズや「OUCHI」シリーズの最新作を中心に、前回の巡回展「木梨憲武展×20years」の人気作まで、絵画、ドローイング、映像など「木梨憲武」らしい自由な発想の作品を展示。富山ガラス工房の作家とのコラボによるオリジナルのガラス作品も出品。観る人を幸せにする展覧会です。



撮影:杉田裕一 ©NORITAKE KINASHI

5 たかはしよしひこ 高橋禎彦展(仮称) 展示室1・2 [2F]

2020年 12月12日[土] ▶ 2021年 4月上旬

高橋禎彦(1958-)は、制作のなかで感じとったガラスの特性や質感をもとに、様々な方法で作品を作りあげています。特にネットワークによる作品は、溶けたガラスの動きを生かした柔らかなフォルムや滑らかな表面が、どこか謎めいた魅力ある姿を生み出し、その感触について見るものの想像を促します。本展では、ガラスの多彩な表情を引き出す高橋の作品の魅力に迫ります。

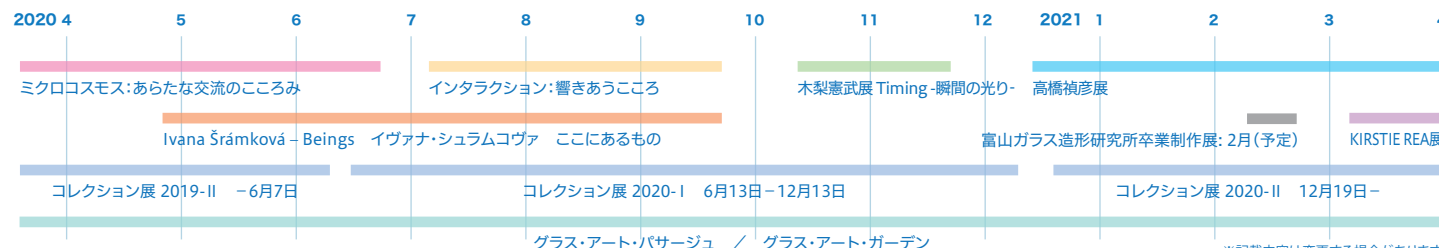


高橋禎彦(とるけること、花のような) 2010-2015年
富山市ガラス美術館所蔵 撮影:斎城卓

6 クリスティ・レイ KIRSTIE REA展(仮称) 展示室3[3F]

2021年 3月上旬 ▶ 6月頃(予定)

オーストラリアの作家クリスティ・レイ(1955-)による、日本初の個展を開催します。



※記載内容は変更する場合があります。